

R2 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和3年3月1日

法人名	園名
社会福祉法人エンゼル福祉会	認定こども園エンゼル子どもの家

まとめ 全体平均 4.59

第2章第2節 乳児期の園児の保育	一人一人に合った生活リズムで過ごせるようにしていきたい。 個人差に留意しながら身近な物事に興味・関心を持ちたり、感覚の発達を豊かにしたりできる環境を準備していきたい。基本的な生活習慣が身についてきている。ひとりひとりの成長を把握し、今何に興味があるかや今何をしたいか、何を成長させたいか考えながら環境を整え保育を心がけていた。表情豊かに接することを心掛け、気持ちを代弁したり受け止めたりすることで信頼関係を築き、安心して過ごすことができるように努力した。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	基本的な生活習慣が身についてきている。クラスの保育者と連携をとって自立へとつなげていきたい。一緒に遊んだり仲立ちに入ったりし、信頼関係を築いたりコミュニケーションの取り方を伝授していけたらいいと思う。応答的な関わりをしてきたことで、子どもたちの言葉が豊かになって来たと感じる。自分自身が楽しむこと子どもの表現する力を引き出せるように活動したい。部屋に金魚がおりえさをあげたり、成長の観察を行っている。朝の挨拶や帰りの挨拶 食事時の挨拶はしっかり行っている。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	行事活動により偏りがちになる保育であっても時間の配分や学年で話し合い協力しあうことで、戸外活動、運動遊びが十分に行えた。子どもの興味・関心を察知して、継続して遊び込めるような環境づくりややりたいと思いが実現できるような素材の準備などの工夫を心掛けた。応答的な関わりにより自分の言葉で伝えたり、相手の言葉に耳を傾けるようになってきた。普段から歌や手遊びで音楽に無理なく親しみが持つことが出来ている。また製作コーナーが設けられいつでも子供達が製作できる環境ができていている。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	分からないことがある場合は担任に確認したり会議の話をもとに職員間で共通理解と協力をして対応している。園児一人ひとりを注意深く観察して対応していきたい。人格形成の大切な時期、人ひとりを尊重して関わっていきたい。保育教諭と連携をとり、また情報交換をし他のクラスの事も把握できるようにした。子どもの体調の変化にすぐ気づけるよう、日常の普段の様子と変わりないか気を付けるようにした。
第3章 健康及び安全	保護者との情報交換を密にするとともに、疾病が疑われる場合には受診を進めるなどの対応を適宜行っている。アレルギーのある園児には、医師からの診断書を提出してもらい、指示に従って食事の提供を行っている。また、診断が変わった時には速やかに連絡をもらえるように随時お願いをしている。
第4章 子育ての支援	保護者に対する子育て支援にできる限り努めているつもりではあるが、これでいいのだろうかや悩み事も多い。子育ての支援を行う際には、保護者の意向と、家庭環境に配慮し最善のアドバイスができるように努力する必要がある。保護者も様々な考えを持っているので、保育者も柔軟な対応ができるように準備をする必要がある。
第5章 職員の資質向上	普段から質のある保育や課題や改善点があれば話し合いをして進めていたが、今以上に話し合いやコミュニケーションをとり自分のクラスだけでなく他のクラスの事も考えお互いによりよい保育が出来るようにしたかったと感じた。自分の役割を見直し、研修などに参加し保育教諭としての知識を深め、子ども達がより良い保育環境で過ごせるよう、更なる向上を目指し努力した。
総合	未満児・以上児ともに環境設定に対しての意識が高く、生き物の観察や、興味を持ったものを取り入れるなどの工夫がなされ、発達が豊かになる環境設定を整える努力が見られた。また、保育教諭や友達と過ごす事の喜び、他の園児との関わり方を少しずつ身につける項目で評価が高く、園児が安定した生活が送れているように感じた。各々が職務分担を意識して行うことができおり、お互いをフォローし合いながら質の高い保育につながっていくのではないかとされる。職員の努力を認め、管理職がサポートしていくことも必要だと感じた。また、園全体では子育て支援に対してまだ改善する部分があるので、知識を深めていければと思った。

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.93
「3歳未満児保育」	32	4.69
「3歳以上児保育」	53	4.46
「教育保育の配慮事項」	16	4.61
「健康・安全」	27	4.96
「子育ての支援」	18	3.97
「職員の資質向上」	2	4.50
計	163	4.59

